

表面的な 米中の《仲直り》

金融アナリスト
永山卓矢

【米中両首脳を仲介するCEO】

今月10日に安倍首相が訪米する直前、米国のトランプ大統領は中国の習近平国家主席と電話協議を行った。

ホワイトハウスは「一つの中国」の原則を維持する事を発表したただけであったが、両首脳協議では、中国を為替操作国に認定しない事が表明されたという。

もとより、トランプ大統領は大統領選の最中から中国からの輸入に45%の関税をかける事を提唱。選挙で勝利した後は台湾の蔡英文総統と電話協議をして「一つの中国」の原則にとらわれない姿勢を示した。さらに実際にその地位に就任してから、大統領は主要国の首脳と電話協議を重ね、その中でも重要な首脳とは実際に会談を行ってきたが、習主席とはそれまで電話協議すら行ってこなかった。台湾の総統と電話協議をしたり「一つの中国」の原則を否定したり、就任してから20日間も中国の首脳と電話協議をしなかったのは前代未聞の事である。

にもかかわらず、米トランプ政権がどうしてここにきて急転直下、中国に対する姿勢を軟化させたのか、またその電話協議を安倍首相が訪米する直前に行ったのかを本欄では明らかにする。

いうまでもなく、それが今後の国際情勢を展望する上で、ひいては市況の行方を占う上で非常に重要な事であるからだ。

今回、米中両国が接近するにあたり、大きな役割を果たしたのが米巨大財閥直系の「ハゲタカ」であるブラックストーン・グループの最高経営責任者(CEO)、スティーブ・シュワルツマンだ。この人物は「蘇世民」という中国名もあるほどの親中派であり、習主席の出身大学である精華大学には米欧の著名な財界人から構成されている「経済管理学院顧問委員会」があるが、その委員会の中心人物である。それでいて、シュワルツマンCEOはトランプ政権が経済政策を運営していく上で、その意見を提言する役割を担う「大統領戦略政策フォーラム」の議長でもある。

この中国側の経済管理学院顧問委員会というのは、中国が世界貿易機関(WTO)に加盟したのを受けてその政策提言をしていく事を目的に、2000年に朱鎔基元首相が設立したものだ。

現在では議長はシュワルツマンCEOだが、かつての最大の人物はゴールドマン・サックス元CEOであるポールソン元財務長官であった。ゴールドマン出身者がそこで重要な地位を占めていたのは、朱元首相が活躍していた1990年代の江沢民政権下で同社が最も中国に進出していたからであり、今でも「上海閥」と密接なつながりがあるようだ。

ところが、ポールソン元長官は2000年代に胡錦濤政権下で、上海閥の若手の「ホープ」とされた陳良宇・上海市党委員会書記が共産主義青年団(共青团)系との権力争いに敗れて失脚したのを見て、次期国家主席、共産党総書記には李克強・遼寧省党委員会書記(当時、現首相)が就任すると読んだようであり、李書記の出身大学である北京大学に接近していった。

それにより、精華大学の人脈から遠のいてしまい、現在では習主席に助言をするとしながらたびたび批判をするなど、関係がしっくりいっていないようだ。

【主導権の移動】

それにより、米国側と習主席との間を取り持つ最大の人物が、ゴールドマン系がはずされて米系巨大財閥直系のシュワルツマンCEOに取って代わったのは重要である。

習主席は以前、「一帯一路」構想を提唱して欧州系巨大財閥の支援を受けて米系巨大財閥に対抗しようとしたが、FRBの利上げ推進姿勢を背景に米系投機筋に中国売り攻撃を仕掛けられると、人民元の信用が失墜して外貨準備も激減した事でそれを事実上、断念せざるを得なかった。その際米国側に「降伏」するにあたり、その仲介をしたのもシュワルツマンCEOだったという。

むしろ、今回のトランプ政権との間でその敵対的な姿勢を軟化させ、今回の両首脳による電話協議につながっていったのもその役割に負うところが大きかったはずだ。

実際、1990年代の江沢政権下ではあれほどゴールドマンの系列が中国に進出していたのが、現在の習政権になってから金融機関では米系巨大財閥直系のシティ・グループの影響力が強まっている。同様に、国際石油資本では同財閥の中核企業であるエクソンモービルが最も進出しているのもうなずけるというものだ。

このため、エクソンモービル前CEOだったティラーソン国務長官は「ロシア通」として知られているが、前記の経済管理学院顧問委員会にも名前を連ねるように中国とも密接な関係にある。

実際、ティラーソン長官はその地位に就任するにあたり、議会で民主党議員からの質問に対し、書面で明確に「一つの中国」の原則を守るとの趣旨で返答していた。トランプ大統領が盛んに中国に対して攻撃的で厳しい姿勢を示しておきながら、この巨大財閥から送り込まれた長官は当初から融和的な姿勢を見せていた。

ただ、そうしたティラーソン長官の返答は首脳間での電話協議が行われる前日の9日に公表されたあたり、米中間での駆け引きを駆使した交渉がこの頃にまとまった事を示唆している。

ちなみに、それに先立つ3～4日にマティス国防長官が韓国を經由して来日した際には、中国側はキッシンジャー元国務長官に「無理やり」「『一つの中国』を守るべき」と言わせていたあたり、この頃にはまだ米中間で熾烈な駆け引きが行われていたのだろう。それを、安倍首相の訪米に合わせて急いで妥結したという事ではないか。

【今後重要になってくるもの】

中国は人類史上、未曾有の超巨大バブルや天文学的な過剰債務、過剰設備に悩まされている中で、足元では小規模の景気対策や公共事業の前倒しで経済成長の失速を凌いでいる状態である。

しかし、それは本来的に構造改革が必要とされている中国経済には、かえってさらなる大きな重荷を背負い込ませる事になり、じきに本格的に国有企業の不良債務＝国有銀行の不良債権の処理に取り組みなければならなくなる。

そうでなくても、FRBが現時点で年内に3回の利上げを推進していく姿勢を打ち出している事から、資本流出が続いてバブル崩壊に拍車がかかりかねない。しかも、米国で事実上の「国境税」の導入による税制改革が打ち出されると輸出も大きな打撃を受けかねないので、不良債権処理はそれこそ「待ったなし」の状態だ。

そこで急激にそれを推進すると、中国経済が失速して致命的な打撃を受けかねないので、漸進的に推進していく事で米中間で合意したのだろう。いうまでもなく、不良債権処理ビジネスの大部分はブラックストーン・グループが担う事になり、またその推進に向けてシュワルツマンCEOがノウハウを提供していくなど重要な提言をしていくのだろう。

不良債権処理を推進していくにあたり、中国側は資金捻出のために一段と外貨準備を取り崩して米国債を売却しなければならない。そのため、米国側としてはその受け皿を確保する必要がある。

その役割を担えるのは世界でも群を抜く貯蓄超過国にして、米国の忠実な「属国」である日本を置いてほかにない。

そこに今回、安倍首相が訪米する直前に米中間の首脳同士で重要な取り決め事の確認作業をしておいて、それから日米首脳会談を行う必要があったわけだ。

実際、既に安倍首相は昨年9月4～5日に中国・杭州で開催された主要20カ国・地域(G20)首脳会議(サミット)で、前日に行われた米中首脳会談の結果を踏まえて、中国が売却する米国債の受け皿となるべく、日銀の外債購入にまで話題が及んだ事を、その後の会見でうかがわせるような発言をしていたものだ。

永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」

詳しくはこちらへ → <http://17894176.blog.fc2.com/>

ガテクニカル

NYダウ 30年前の10倍

ダウ平均は連日高値を更新。しかもその高値は史上最高値。上値抵抗が存在しない状況。レジスタンスは心理的な価格レベル、切りの良い数字となるが、次は21,000、そして22,000。ちなみに日経平均が初めて2万を突破したのは1987年1月。今と30年前が同じ価格レベル。その後26,000まで5ヶ月で達成。この年の高値は10月26,646。その後、恐怖のブラックマンデーが到来。しかし2万を割らなかった。

当時のNYダウ平均は2,000。現在の10分の1。初めて2,000を突破したのは87年1月、そして、現在のNYダウは1月に2万を突破。当時のダウ平均と現在を照らし合わせると似たようなところが随所にみられる。当時の物差しを10倍にして現在のNYダウを計ると、4月初旬24,000、末に21,800まで調整、再度上伸、8月に27,000で天井、10月ブラックマンデーで16,000まで大暴落。さすがにこの値幅は大きすぎるだろうが、波動としてはありえる。

4月までの上昇は日経平均も期待できそう。その後、急落しても再び上伸といった波動。ただし、今年の秋、ブラックマ

今週のど押し

1月安値を割れぬ限り

先週、ユーロドル相場に関してこう記述“昨年5月高値を起因とした下降チャネルラインの中で推移しており、現在の値位置はその中間地点。更に昨年12月8日と2月2日の高値を結んだラインと、先述1月安値と先週15日安値とを結んだラインとで三角保合いになっている。従って、現在相場は移動平均だけでなくチャートパターンの「放れにつけ」の状態になっているといえよう”。22日、相場は15日安値を割り込んだ。

しかし、相場は翌23日に反発。更に22日安値出現時の15日スローストキャスティクスは15日の数値を下回っておらず、これは「強気オシレーターダイバージェンス」の可能性もある。今週以降、この指標が40%を超えて上昇を指向するようなら、よりその可能性が高い。更に現在1.060～1.066に存在している23日、及び69日平均を突破すると相場基調は強気に。直近で最も強力な上値抵抗は、1.08を僅かに超えた付近にある16年3月の安値水準。目先はこの値位置を目指そう。

アストロカレンダー

永井 元

世の中良くなならない。北朝鮮が不安定な動向になっているが、横田めぐみさんは帰って来そうにない。血縁も殺処分するような国だ。国柄というのは恐ろしい壁だ。日本では考えられない。

せめて生きているうちに親子を再会させてほしいが、そのような温情はないだろう。何もかも、危ない状態に静かに近づいているような気がしてならない。

国内も平和で明るくなるような話題が乏しい。都政では前知事をつるし上げたりで、何か責任を他人へ押し付けられるばかり。

自己責任で何かを成し遂げるような前向きな風潮がない。

我が国も、人類全体もこのままで良いのだろうか。不安と懸念ばかりが目にある。

2月27日、新月を迎えるが、為替が目先の節目となる暗示が。円安か円高かいずれかに進み出す事を意味している。今、木星と天王星がほぼ180度の位置にあり、この状況は過去バブル天井の時期と似た状況である事はお伝えした。3月は株式がそこそこ買い進まれる傾向にありそうだが、期末接近で突っ込みそうな暗示。

トランプ相場などと囁き立てているが、あまり気楽な投資は禁物であろう。どこでブラックマンデーの再来が襲い掛かるかわからない。今は歴史が繰り返すか否かをじっと見守った方が無難だ。

ンデー再来は今のNYダウの高値更新が続けば起こりえそう。

日経平均の目先の動きは昨年12月に高値をつけて以降9週間の保合い。レンジは19,600～18,650。保合い上放れは4月に向けた上昇を示唆し2万達成。ただ、レンジ下放れは2015年8月のチャイナショックの如き急落を見る。2月のギャップ(18,991～19,193)下抜けはこれを警戒。先週述べたように、96年のフラクタルが復活するので注意。



逆に今週、上値重く引け値で22日安値を割り込む可能性も否定できない。その際は再度強気オシレーターダイバージェンスが出現するか否かに要注目。出来ていれば真の買い場になろう。

金星逆行の発生等、ジオコスミック的には要所となる今週だが、少なくとも1月の安値を割り込まない限り大局的には強気。その姿勢で押し目は徹底したリスク管理の元で買い進みたい。



アストロカレンダー 3月 永井 元

	天文現象	注目マーケット		天文現象	注目マーケット
1 水	月赤道通過	為替・小豆・ゴム	16 木		
2 木			17 金	春の彼岸の入り	小豆
3 金	月最近 木星・天王星180度	株式	18 土	水星・金星会合	コーヒー
4 土	水星・火星45度 金星逆行	アニバーサリーデー コーヒー	19 日	月最遠	
5 日	上弦		20 月	春分	全マーケット
6 月	火星・土星120度	全マーケット	21 火	下弦 月赤道最南	穀物
7 火	月赤道最北 水星外合	穀物	22 水		
8 水			23 木		
9 木			24 金		
10 金			25 土	金星内合	アニバーサリーデー
11 土			26 日		
12 日	満月	全マーケット	27 月		
13 月			28 火	新月 月赤道通過	全マーケット
14 火	月赤道通過	為替・小豆・ゴム	29 水		
15 水			30 木	月最近	
			31 金	木星・冥王星90度	株式

今週の相場風林語録

大欲は無欲に似たり (1)

あんまり大きな欲を出しすぎると効果が消えてしまう。

今週の**九星★波動**

波動逆転の可能性

南雲 紫蘭

トランプ米大統領は、パレスチナ国家を樹立してイスラエルとの共生を目指す「2国家共存」論について「わたしは2つの国家と1つの国家（という考え）の双方に目を向けている。両当事者が望む方が好ましい」と発言。パレスチナ国家とユダヤ国家の両立でなんとかバランスを維持しようとした世界の外交界の大原則に背を向けました。

イスラエルとパレスチナ自治政府が存在する地域に単一国家、もしくは連邦国家を成立させるとするのは、イスラエル主導以外ありえず、実際、パレスチナ自治政府は1つの国家について、結局はイスラエルが主導権を確保してかつての南アフリカのアパルトヘイトの如く、パレスチナ住民が国家内で差別的待遇を受けるとの見方を示しています。北朝鮮の背後には中国があり、取引をしていますが、ことパレスチナに関してはとことん戦闘的なトランプ政権の牙が垣間見れたといえそうです。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (384)

中原 駿

口火は、最も米国経済に弱気なロンドンの為替資金部部長が切り出した。今が、全ポジションをロングにするタイミングである。不良債権問題がクローズアップされてきたこの時期は、なんとか市場国際部門が踏ん張るしかない。一気に収益を上げるためにもリスク量を上げるべきタイミングだ、と熱弁した。

既にグリーンスパンのF R Bは4度利上げを実施していた。1年に2度するかしないか、という現在のF R Bとは全く違うアグレッシブなスタンスを、グリーンスパンのF R Bは見せていたのだった。

「この利上げペースの速さはF R Bの焦りを意味している。だからこそ早急に利上げた。一方で米国の生産性は上がって

第六感の 癖の悪いレンジ

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

ダマシもあり得る

ドル円相場はレンジ内の動き。早くも2月が終わろうとしている。これで2月の風相場は4年連続。但しレンジと言ってもクセの悪い相場。レンジ下限、上限ブレイクはダマシになることが多かった。昨年は2～3月110～115のレンジを続けた後、4月下抜け、いざ急落再開かと思わせたところで、一旦レンジ内に戻る。そして4月末急落。5月にまたレンジ内をテスト。6月ブレイグジットに向けて崩壊。

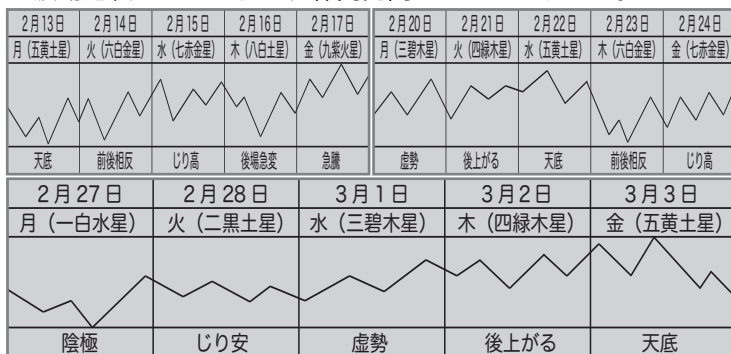
2015年は117.5～120円のやはり微妙なレンジで3月上抜けも4月レンジ内に戻され、5月中旬まで低迷。2014年はご承知の通り、半年以上に亘る低レンジ相場であった。本欄ではかなり前から2014年版をフラクタルとして現在の相場に照らし合わせている。ただ時間は2014年ほどレンジを長く継続するとは想定していない。ただ、2014年版ではレンジを確実に上抜けた後、2カ月足らずで110円まで上伸。約8%の上昇率。今回のレンジ下限を112円前後と想定すれば、8%の上昇率では約120円。その間の上抜けや下抜けがダマシになったりする可能性は十分あり、レンジブレイクで損切り、あるいは、乗せを仕掛けると、そのブレイクがダマシであったなんてことも想定せざるを得ない。

2014年版のレンジでは4月にレンジの最高値を付けた。これは現在の相場に当てはめると116円台。当時はそれがまた、ダマシの上抜けで、その後2.7%の急落に見舞われた。今回も

こうしたトランプ政権の好戦的姿勢は、果たしてドル高か、ドル安か、しばらく市場は悩むことになりそうです。

しかし、はっきり言えるのは戦争は株高で、今までのところその通りの典型となっている、ということです。

さて、九星高下伝は逆転しているような波動になっています。月盤《八白土星》は「後場急変」という星。ここから3月までは波動逆転が正しければ、株高円高となるのですが…。



いない。したがって、すでにF Fレートは均衡水準に達しつつある。このレベルからの金利低下で利益の出るポジションは相当、かつ急激に収益を上げる可能性が高い。今やるべきと考え

る。場の雰囲気は、そちらにもともと流れていたし、これで決まり、という雰囲気が漂いは占めていた。

しかし、上野はあえて反論した。

「利上げのペースがF R B議長 of 示しているというよりも、現実の変化に対応しているに過ぎない、という可能性はある。米国の生産性と潜在成長率は上がってきているのではない。例えば現在進行形のインターネットは世界の生産性を引き上げる可能性がある。潜在成長率が2%上がるとすれば、F R Bはあと4回以上金利は上がる。あと半年は様子を見るべきだろう」。

し116円台を付けた後2.7%下落すれば3円幅の急落。癖の悪いレンジ相場となりそうだ。

現在のレンジの中心を113.30±0.70と見れば、レンジ下限を買い、レンジ上限が売り。ただ先週述べたが「3ポイント上値抵抗を突破すると1月3日の年初来高値に挑戦する動きを見ると予想する。従って、順張りを好む投資家はこの上値抵抗突破からロングを仕掛けていくのも良いだろう。逆張りの投資家は112円台を買い拾いたい。ストップは111.50割れの引け値に引き上げる」。先週は115円台の利食いを狙ったが数銭及ばず取り残しとなった、今週は115円前後で一部利食いを狙う。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第29回】NY白金のサイクルについて (4)

前回解説したNY白金の「70±12週サイクル」から、今週はプライマリーサイクル(PC)レベルまでの日柄を見ます。

08年10月27日の安値752.1ドルを起点に上記70週サイクルを更に細かく数えると、16年12月15日の安値888.7ドルまで合計16個、平均27週(≒26.5週)のサイクルが存在。前後に5週のオーブを加えて22～32週のPCがあると仮定すると、16個中14個(87.5%)が上記の日柄に適合。これは全体の8割に適合するというPCの条件に合致。もしそうであれば、上記70週サイクルPC3つで構成される事になります。ただ、14年12月22日から16年1月21日の安値までの56週短縮ボトムは、2つのPC(32週、24週)で構成されていました。

通常PCは2分割もしくは3分割されます。上記の方法論で日柄を数えると、前者は12～16週のハーフPC、7～11週のメジャーサイクル(MC)が存在していると考えられます。これに前号登場の移動平均を加えた週足を作ってみました。

16年1月安値を起点に、現在2つのPCが確認されています。70週サイクルは3つのPCで構成されているので、現行PCは3つ目のPCの今週11週目。通常の日柄では今週が第1MCの形成場面であり、1,032ドル付近でダブルトップをつけた可能性があります。そうでなければ、ハーフPCボトムに向かうでしょう。いずれにせよ、現在は短期修正局面と見ます。少なくとも、975～1,000ドルが目先のサポートになります。この値位置を維持できるか否かが、目先の注目ポイントになるでしょう。



更にその翌日は金星逆行の開始日。以前から各所で指摘の通り、ある一定の期間を要する天体イベントでは開始日と終了日、そして中間点(逆行の場合は“外合”か“内合”とも呼ばれる)が相場の節目となりやすい。今週から来週にかけての相場は、メリマン氏が年内最強の時間帯と形容するジオコスミック期間の中でもとりわけ強力な時間帯の中の1丁目といえよう。

また、メリマン氏は今週発行の『MMA日経週報』の中でもこのジオコスミックイベントについて解説。「…過去のデータから見ると、サイクルの終焉場面は木星・天王星オポジションから金星逆行のどちらかの前後12営業日で出現するのではないかとされる」とも記述。想定される日柄の範囲が若干広いのだが、少なくとも相場の反転反落、サイクルの節目の出現には注意か。

もう1つ、3月2日の太陽・海王星コンジャンクション(0度)が魚座で起こる点にも注意しておきたい、この3つの星と先述の木星はどれも原油に関連している。この前後に原油相場に変転があれば、それが何かの引き金になる可能性もあるだろう。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアstroロジ info

- 2月27日(月) パニック相場はいずれ元に戻ることが多い
- 2月28日(火) 明日の大きな動きに備える
- 3月1日(水) 週後半に向けエネルギーを貯める
- 3月2日(木) 雇用統計前、前触れ、明日以降に激変か
- 3月3日(金) 金星逆行前日と木星・天王星180度
- 3月4日(土) 今回の金星逆行は8年前とほぼ同じ性質
- 3月5日(日) 金星は黄金分割の星、美の象徴

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例
で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望
銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー

代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)

FORECASTS 2017
フーキャスト2017
星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

2017年は相場の節目か？

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日輝香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ：投資日報出版(株) <http://www.toushinippou.co.jp/>
お申込みは
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE 人形町6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444